

第2回県立総合医療センター機能強化基本構想検討委員会の概要

- 1 開催日時 令和4年10月25日（火） 9：30～11：00
- 2 場 所 山口県庁本館棟1階 視聴覚室
- 3 出席者 委員 12名
- 4 議 事

○ 具体的な医療機能等について

【意見交換・質疑】

委員からの主な意見

【全体関係】

- ・高度急性期・急性期医療の基幹病院として、引き続き県内医療の中核的役割を担うとともに、本県医療全体の質の向上が図られるよう検討を進めていただきたい。
- ・将来の医療需要や果たすべき役割を踏まえ、持続可能な医療提供体制をしっかりと維持していくためにも、県立総合医療センターの役割として、高度急性期・急性期機能の強化が必要であり、そのために必要となる病床を十分に確保することが必要。大学も連携して取り組みたい。
- ・各センター化により部門間や多職種連携、重症患者への対応強化、新規性の高い医療技術等の導入が推進されるだけでなく、機能の集約や人員の適正配置等の効率化が図られるよう期待している。

【5疾病関係（がん、脳卒中、心疾患、糖尿病、精神疾患）】

- ・医療需要等を鑑みて、がん・糖尿病・呼吸器疾患等について、中心的な役割を担うとともに、特に力を入れている脳卒中や心疾患、整形領域等の高度医療をさらに充実するよう取り組んでほしい。
- ・急性期の身体合併症に係る精神科患者の入院需要が高まっているため、受入強化にしっかりと取り組んでいただきたい。

【6事業関係（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療、感染症医療）】

- ・県立の総合病院として、感染症やへき地、災害医療についても、継続的に機能を強化していただきたい。
- ・整形領域において、脊椎外科の機能が弱いのであれば専門医を入れて充実するのも大切と思う。また、すべての診療領域において一定以上のレベルの機能が確保できるよう、人材育成を含めて大学病院の協力も得ながら進めていただきたい。

- ・大災害時における非常電源の確保等、リスク回避や防災対策については、施設整備の面からも十分に検討されたい。
- ・へき地への医師派遣は重要な役割。総合診療専門医の育成やデジタル技術の活用等による、へき地医療の充実に期待している。
- ・災害発生時や新興感染症拡大時に的確に対応するため、平時におけるソフト（看護師の確保・人員配置・運営等）・ハード（設備や機器の活用・メンテナンス等）両面での工夫が必要。高い機能とレベルを維持していくための取組をしっかりと検討してほしい。

【人材確保等】

- ・低侵襲な手術支援ロボットの導入など、高度医療機器や最先端医療技術の導入は若手医師確保の面でも重要。
- ・感染症対応等を牽引する人材育成機能の強化に期待している。
- ・医師確保や人材育成については、大学として高度医療の提供とあわせて連携して取り組みたい。
- ・看護師等を輩出する県立大学や看護職の研修を担う看護協会もしっかり連携して、医療従事者の確保・育成に取り組みたい。
- ・関係団体と協力・連携して、資格取得やタスクシフト／シェア等も鑑みながら、医療現場で最新かつ実践的な研修を実施するなど、教育研修の充実や医療従事者の専門性・医療技術の向上を図る取組を実施していただきたい。

【その他】

- ・高度な医療を必要とする時に、かかりつけ医から病院に適切に繋がるよう、かかりつけ医との連携など地域連携の強化を図るとともに、最新の医療情報等を共有できるよう、かかりつけ医への情報提供に努めてほしい。
- ・口腔衛生管理は手術後の誤嚥性肺炎やVAP（人口呼吸器関連肺炎）の予防、在院日数の減少に非常に有効であるので、医科歯科連携にも取り組んでいただきたい。
- ・薬局薬剤師と病院薬剤師との連携を進め、電子処方箋も活用しつつ、へき地や感染症医療等の充実に努めていただきたい。
- ・予測できない新興感染症対応や医療技術の進歩等にフレキシブルに対応できるような施設整備やスペースの確保等が求められる。
- ・持続的な経営健全化を推進するため、施設整備等にあたっては、整備時から維持管理を経て最後の処分まで、全体を通じてのコストに留意されたい。